

世界にはばたく中津高生



旭陵留学生の
留学先のスナップ



旭陵奨学金プログラムで 海外留学した生徒数が四五名に

この旭陵留学生プログラムは全
国でも非常に珍しい本校同窓会に
よる「海外留学奨学金制度」で、創
立一〇周年記念事業の一環として
平成十七年より開始されました。
その趣旨は国際社会を見通すグロ
ーバルな視野を持ち、地域におい
てローカルに活躍する人材の育成
にあり「グローバル」を合い言葉に
プロジェクトをすすめてきました。
最近ではよく耳にするこの考えで
すが、本校同窓会がすでに十年以
上前から実践していることは称賛
に価すると思います。平成二〇年
度までを第Ⅰ期として、一年間に
最大六名、五年間で三〇名の生徒
に奨学金を給付しました。派遣国は
アメリカ合衆国、イギリス、カナダ
オーストラリア、ニュージーラン
ドの英語圏五カ国で、約一年間滞
在するプログラムとなっていました。
平成二一年度の第Ⅱ期からは
一年間に最大二名の給付となり、

平成二九年夏の出発者まで含め、
総勢四五名の陣容となりました。
開始時は、地球規模からすれば、点
の状態であった旭陵留学生の軌跡
が、点から線へ、さらに面となり世
界を力バーする状況となってきた
のではないのでしょうか。あと三年
ほどで旭陵留学を経験する学生は
総計五〇名に達することになりま
す。最近では、第Ⅶ期生の西尾梨
沙さん、伊藤いづきさん(平成二三
年出発・派遣国：アメリカ)が就
職し社会人としての大きな一歩を
踏み出しました。西尾さんは、大
手生命保険会社に、伊藤さんは全
日本空輸株式会社で客室乗務員と
して勤務すべく日々の訓練、研修
に励んでいるという喜ばしい報告
がありました。旭陵留学で身に付
けた語学やコミュニケーションス
キルが生かされていると実感しま
す。今後ますます期待が膨らみます。



発行者
岐阜県立中津高等学校
同 窓 会

題字は今井一三校長
タイトルバック 秋山伊穂子
(可児市在住 22回生)

旭陵留学生同窓会総会に参加

平成二九年五月の同窓会総会
に旭陵留学生がビデオメッセー
ジというかたちで参加しました。
第12期生の小栗千奈さん(平成二
八年出発・派遣国：カナダ)、
平岡咲奈さん、熊澤萌里さん(平
成二八年出発・派遣国：アメリ
カ)が発表。留学の経験を通し
学んだことや、変化した自分自
身について、また同窓会のパッ
クアップで念願の留学を実現で
きたことへの感謝の思いを述べ
てくれました。

新しい動き

地域で活躍する旭陵留学生

平成二九年七月、出発を目前
に控えた第13期伊藤智紀さん、
小南菜子さん(平成二九年出発・
派遣国：カナダ)と、留学から
帰国したばかりの前出の小栗さ
ん、熊澤さんは、中津川市中山
道歴史資料館での事前・事後研
修に参加しました。この中山道
歴史資料館での研修は三年前か
ら始まり、旭陵留学生にとって
定番の研修と位置付けられます。
目的は留学生自身が地元の歴史
をよく知ること、そしてその知
識を現地で伝えることにありま
す。この研修で得た知識を今後
馬籠宿での観光通訳ボランティア
や資料館での英語による紹介
などの活動に積極的に活用され
ることが期待されます。



馬籠宿で観光通訳ボランティア



三重県立相可高校生と交流

平成二九年七月、前出の小栗
さん、平岡さん、熊澤さんは、平
成二八年年度高校生の留学促進事
業の奨学生にも選出されてい
たため、留学成果を岐阜県教育
委員会が発表しました。スライ
ドを用いて岐阜県教育長を始め
とする教育委員会幹部の前で
堂々と体験を披露してくれまし
た。

平成二九年度旭陵留学生選考 の経緯

平成二九年度募集説明会(一、
二年生対象)には十二組の保護
者と生徒が集まり熱心に耳を傾
けていました。選考試験には五
名が応募。六月七日実施の第一
回ELTISの結果を受け、七月
二八日の保護者同伴面接に四
名が進むことになりました。第
一回ELTIS、保護者同伴面
接の結果を総合し、二名が第二
回目のELTISを受験。旭陵
留学生選考委員会の承認を受け、
第14期旭陵留学生が決定しまし
た。次年度から約一年に渡り留
学するのは二年A組小関夏鈴さ
ん(第二中・派遣国アメリカ)
と二年B組林昌佐美さん(蛭川
中・派遣国：カナダ)です。



ランチタイム英会話



中山道資料館にて

創立一二〇周年へ向けて ―結果・効果―

留学先での貴重な経験をへて、
大学進学、社会人として様々な
分野で活躍し、貢献している旭
陵留学生。九月に進路学習の一
環として校内で開催された天
学生に聴く会では、第10期北
村美月さん(平成二六年出発・
派遣国：カナダ・名古屋外国語
大学二年生)が講師の一人とし
て参加し、在校生の前で北村さ
ん自身の進路実現について発表
しました。北村さんは留学で培
った語学力と大学での学びを生
かし英語教員を志望。母校中津
高校で旭陵留学の担当をすること
が夢だそう。このほかに
も世界を舞台に語学力を生かし
活躍しているOBがたくさんい



2017.6 体育祭の光景



2017 大盛況のピクニックコンサート



岐阜県留学促進事業

る一方で、第4期生吉田寛俊さ
ん(平成二〇年出発派遣国アメ
リカ)のようにホテル花更紗(中
津川市神坂)に勤務する中で地
元に根差し、まさにグローバル
に活躍しているOBもいます。
卒業生の活躍を伝える機会を増
やすことで、創立一二〇周年に
向け、在校生が将来グローバル
に活躍したいと思えるような動
機付けになることが望ましいと
思います。この旭陵留学生から、
世界で、また地域で活躍する人
材がひとりでも多く輩出できれ
ばと願っています。

文責 渉外部 佐藤 恭子 44回生

また、もう一つアジアや海外で働きたい理由として、さらなる自分の成長を遂げたいと思っているからです。社会人になってわかったことは、自分で仕事をしてお金を稼いで学んだことが、自分の糧になるということです。もちろん、大学の勉強や留学の経験もなくしてはならない経験です。しかし、お金を払って学んだことよりもお金をもらって経験できることの方が大きく、重た価値があり、自分にとって重要なことだと思います。お金をもらっている以上、責任感が増えますし、失敗や成功から得たものは簡単に忘れられること

■「臨床科学 新版第三版」 講談社

■長村洋一（12回生）

「地名由来でみる東京の地名」
まつお出版

■山内和幸（18回生）

「非営利と営利の組織理論
【非営利組織と日本型経営システム
の信賴形成の組織論的解明】」
紘分社

■村上綱実（24回生）

「高大接続改革 変わる入試と教育システム」
筑摩書房

■山内太地（47回生） 本間正人

「オリガミ・ボックス かわいい
使える！不器用な箱がいつぱい！ラッキ
折れじッターはまる。箱のオリガミ」
日貿出版社

■山梨明子（31回生）

「バリアバリュー」
BARrier VALUE障害者を価値に変える

■垣内俊哉（59回生） 新潮社

出版情報をお寄せください

中津高校の一年

中津高校教頭
宮田 大介

中津高等学校同窓会のみなま、お元気で過ごしてのことと存じます。日頃は母校中津高校に多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。紙面をいただきましたので、平成二九年度の中津高校の様子、行事や取り組みにおける生徒の姿を中心に報告いたします。

中津高校のこの一年
創立一〇〇年の大きな節目を経て二年目となる平成二九年度は、中津高校が着実に発展・向上してきていることを実感できる一年となりました。

馬籠観光ボランティアをはじめとして、学校外での様々な活動を行う「CCC(Community Connection Club)の略、地域貢献活動の意、活動」などを通じて、生き生きと活躍する生徒の姿を地域の皆さんに見ていただける機会を増やしたと、また近隣の中学校、中学生と保護者に向けて、中津高校の良さを積極的に広報したこと、卒業していく三年生が、他の進学校に勝るとも劣らない進学実績をあげていること、そして何より現在の中津高校生が、毎日充実した高校生活を楽しんでいる様子などを通して、生徒を伸ばす学校「面倒見のよい学校」という評価が東濃全域に広まってきていることを実感した一年でした。

また、昨年度末のことではあります。対日理解促進事業「KAKEHASHI(カケハシ)プログラム」(主催：財団法人日本国際協力センター)として十八名の生徒と二名の教員が、三月二日(三)日にカナダ・バンクーバーに派遣されるという得たい機会を得ました。同窓会にご支援いただいている旭陵留学以外にも、多くの生徒が海外に出て現地の人々と交流することができ、その成果が広く中津高校全体に共有されることが期待される一年となりました。

四月、新たに今井一三校長先生が飛騨高山高校から赴任され、厳しい入学試験を経た男子九二名、女子一〇八名の新生を迎え、全校生徒六〇四名で今年度の入学式で今井校長先生は新生に「たった一度の人生のなかで何を目標に考えながら過ごすか、高校生活を送り、互いに高め合う集団であれ」と話されました。始業式以降、新生に対するオリエンテーションや歓迎会が

エンターションや歓迎会がこなわれ、各部活動は新入部員の獲得に工夫をこらしました。昼休みには満開の桜の花の下で弁当を広げる生徒の姿もあり、笑顔のあふれる中で中津高校の新年度は始まりました。

五月、学年ごとに遠足に行きました。一年次生は、「野外民族博物館リトルワールド」に行き、昼はグループでバーベキューを楽しみました。いろいろな中学校から集まったクラスメイトとの距離が一気に近くなりました。民族衣装を着た姿を写真に撮って楽しむグループもありました。二年次生は、秋の沖繩への研修旅行をふまえ、松代大本営跡の見学を主に長野方面に行き、あわせて善光寺を見学して帰って来ました。三年次生は、京都市内で大学見学を主にした特別研修を行いました。往復のバスの中で、旭陵祭で取り組む演劇について話し合うクラスもあったようです。

旭陵祭は、六月二四日(土)二五日(日)の二日間にあつて文化祭、二六日(月)に体育祭という日程で行ないました。文化祭では各クラスが演劇・演説・展示に取り組み、文化系部活動もまた、校内での絶好のアピールの機会として、日頃の取り組みの成果を発表しました。体育祭では、各軍とも応援団を中心に勝利を目指して声をあげ、胸を張り、全力を尽くす姿がありました。六月実施になって、当初は雨のせいで日程やプログラムが一部変更になることもありましたが、一昨年度から三年連続して、好天に恵まれています。

合宿の本陣でも、外国人旅行者のために英語通訳をしてほしいという要請があり、そこでも留学経験者を中心に英語の堪能な生徒が活躍しました。

七月に大阪府吹田市文化会館で行われた、「第四七回全国高等学校ギター・マンドリンフェスティバル」にギターマンドリン部が今年も出場しました。さらに続いて福島県で行われた全国総合文化祭にも、部門の岐阜県代表として参加しました。

八月、「中学生体験入学」を実施し、五〇五人の中学生の参加がありました。中津高校に対する関心の高さがうかがえます。教員は中津高校で学ぶことの面白さを感じてもらおうと模擬授業を行い、生徒会の生徒が工夫をこらしたクイズ形式で、中津高校で学ぶことの素晴らしさをユーモアたっぷりにアピールしてくれました。同じ時期に、ウエイトリフティング部男子一名が、福島県でのインターハイに出場し、女子一名が北海道で行われた全国大会に出場しました。ウエイトリフティング部は常に全国大会への出場がある、中津高校の部活動全体を牽引する部活動となっています。

中学三年生が志望校を決める時期である秋に、中津高校をも

今年度の沖繩への研修旅行の十月二四日(火)から二七日(金)の三泊四日は、台風二二号と二二号の間にはさまれた四日間、一日早ければ沖繩への飛行機が飛ばず、一日遅ければ那覇から戻ってこれないという天候のなかで、たいして雨に降られるということなく、予定どおりの研修を行うことができました。

特に「ひめゆりの塔記念資料館」「沖繩県平和祈念資料館」で、他校の修学旅行生がさつと通り過ぎてしまふなか、展示物・説明の二つ一つの前で足を止め、おそらく胸を痛めながら見入っている中津高生の姿が印象的でした。ガマの中で説明をしてくださった地元のガイドの方や「平和講話」で講演してくださった講師の先生から聞く姿勢が、素晴らしい高校生だ」と褒めていただきました。沖繩ではその他、美ら海水族館やマリンドリンクなど、地元ではできない楽しい体験もしてきました。現在、東濃地域のほとんどの高校では、研修旅行の行き先は沖繩になっています。またこの期間中には、一年次生が秋季研修、三年次生が球技大会を行いました。

十一月には「ひびきあいの目」として、縦割りのグループを作り、その班ごとに「平和について」というテーマで、活発に意見の交換をしました。「ひびきあいの目」は、人権尊重啓発のために設けられた「二日」ですが、中津高校では自己と他者の良さを発見し、互いにつながるための取り組みを行っています。

一月、大学入試センター試験がありました。

二月、英語の授業改善の地区拠点校として今年度も取り組み、まとめとして近隣の小中高等学校の先生にも参加を呼びかけて、研修会を開きました。中津高校は「英語科」「英語コース」のあった学校、現在では「旭陵留学」として毎年留学生を送り出している学校であり、地域の英語教育の先端を行く学校として、さらに認知されるよう努力していきたいです。

本年度も、生徒の学校外における活動の場面、地域に出て活動する機会を多く設けました。教室の外で多様な体験をすることが、その後の学業成績を伸ばし、人生を豊かにすると考えているからです。高校生活の三年間で中津高校の生徒は、本当に伸びています。そういう中津高校の良さを積極的にアピールした結果、志願者数が大幅に増加し、地域における中津高校の存在感がいよいよ増してきました。そのような期待に応えるべく、教育活動に取り組んでいきたいです。まずは、特別な行事ではなく、毎日の学習指導、日々の授業の向上・充実を心がける必要があると考えています。

今後とも、母校中津高校に對しましてご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

カケハシプロジェクト



カケハシプロジェクトは、「対日理解促進交流プログラム」のうち北米地域を対象とした交流事業です。「対日理解促進交流プログラム」は、日本政府(外務省)が推進する事業であり、日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、対外発信力を有する将来を担う人材を招へい・派遣するものです。人的交流を通じて、我が国の政治経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する理解促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、また、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充することを目的としています。



の、校内選考をクリアした生徒十八名(二年次生九名、二年次生九名)と引率教員の二名。渡加に先立ち、一行がまず初めに取りかかったのが、ホームステイ先の高校で披露することになったプレゼンテーションと実演の作成であった。プレゼンテーションでは日本の四季をベイスに年中行事について詳しく説明したり、クイズ形式も取り入れた。実演では、日本の文化でも特に関心をひく、



イ先の高校で披露することになったプレゼンテーションと実演の作成であった。プレゼンテーションでは日本の四季をベイスに年中行事について詳しく説明したり、クイズ形式も取り入れた。実演では、日本の文化でも特に関心をひく、



今回のカケハシプロジェクトに参加し、高校生という比較的に早い時期に海外を訪問するチャンスを得たことに参加者一同感謝する思いで一杯である。この研修をきっかけに旭陵留学に応募し、留学を手に入れた生徒も大いなる一助となることを心から願います。文責：佐藤子 44回生

部活
ギター
マンドリン部
部活動報告

ギターマンドリン部は二〇〇七年(平成十九年)創部の比較的新しい部活動です。統合した恵那北高校には伝統と実績を誇るギターマンドリン部がありましたが、その楽器や楽譜を受け継いで使わせていただいています。そのご縁で、恵那北高等学校校同窓会の皆様には楽器の寄贈や励金などの形で、現在も活動を見守っていただいております。



部員は三年生合わせて概ね十名前後で活動しています。全国大会等に出場する学校は数十人規模、中には五〇人以上の部が多い中で、本校はいつも最少人数での参加になります。

パートを一人が受け持つことがほとんどであり、一人一人の音が重要となるため、責任を持って練習に臨んでいます。



最近の活動実績としては、平成二八年に行われた「第三四回岐阜県高等学校ギターマンドリン・邦楽合奏コンクール」で優秀賞をいただき、「第三四回東海選抜高等学校ギターマンドリンフェスティバル」で全国大会出場が決まりました。今年度は「平成二九年全国高等学校ギターマンドリン音楽コンクール」に出場するとともに、岐阜県代表として二〇一七みやぎ総文(全国高等学校総合文化祭)に

参加させていただきました。三年生一名、二年生五名の合計六名での出場でしたが、大勢の聴衆や厳しい審査員の前で弾く緊張と、このパートを弾く者は自分分しかないというプレッシャーの中で堂々と演奏をやり遂げました。審査員からは「自然な流れと歌心がある」「あたたかみの感じられる演奏だった」「お互いを聴きながらの心地良いアンサンブルだった」「六人とは思えない演奏で、記憶に残ることでしょう」などの講評をいただきました。



現在は、演奏指導者がいない中、生徒だけで練習計画を立てて技術を伝えています。音楽的な表現についてわからないことは多いですが、自分たちで楽譜を読み、上級生を中心に細かな表

サッカー部
活動報告

現在、サッカー部は二年生十七名・一年生十四名の三十二名で活動しています。基本的には平日練習、休日は遠征・対外試合を行っています。その中で大切にしていることが三つあります。一つ目は、考えて自分の判断でサッカーをすること。二つ目は、勝敗にこだわること。三つ目は、サッカーを通して一人の人間として自立すること。この三つを大切に日々、努力して活動しています。その結果、東濃地区で優勝し、ここ三年間では県ベスト十六を連続して勝ち取ることでできています。次の目標としては、県ベスト八・ベスト四そして優勝することです。この三年間県内の強豪校と多くの試合をしてきましたが、強豪校と

中津高校の差はたくさんあります。そのなかで今年から取り組んでいることは、技術面はもちろん体重増加・栄養サポートを練習の中に取り入れたことです。すぐには結果がでにくい部分ですが強豪校に勝つためにも長い期間を見通して取り組んでいます。さらに今年から、月水金は顧問がメニューを考え実践し、火木は自分たちでメニューを考えて取り組む新しい挑戦もしています。文責：木下 文太



【試合結果】

第65回岐阜県高等学校総合体育大会			
(地区予選)		(県予選)	
中津 4-0 恵那	中津 4-2 岐山		
中津 5-0 麗澤瑞浪	中津 0-2 長良		
中津 1-2 多治見	県ベスト16		
中津 2-1 土岐商業			
地区優勝			

第95回全国高校サッカー選手権 岐阜県大会			
2回戦 中津 6-1 多治見工業			
3回戦 中津 4-1 岐阜北			
4回戦 中津 0-3 各務原	県ベスト16		

岐阜県高校サッカーリーグ 3部リーグ			
1節 中津 4-0 土岐紅陵			
2節 中津 6-0 武儀			
3節 中津 1-0 加茂			
4節 中津 4-2 飛騨神岡			
5節 中津 2-1 中京C			
リーグ1位			
2部リーグ入れ替え戦決定			

水泳部

人格の形成
競技力の向上

本年度は、男子一名、女子一名という少ない新入部員を迎え、総勢男子七名、女子三名で二人格の形成「競技力の向上」の二本の柱を目標に活動を行ってききました。県内高校では三校しか有していない五〇mプールを使用し、五月の始めから九月末まで学校の屋外プールで泳ぎ、冬は陸上トレーニングと週末に近隣スポーツクラブの温水プールを使用しての水中練習を行っています。

今年度も、個人種目はもちろんですが、男子リレー3種目での東海大会出場を目標に練習をしてきました。6月に行われる県総体で八位までに入れば東海大会に出場できるのですが、七八、九十位がぎりぎりの争いをし、中津高校はその中に入らるうと予想していました。予想通りの厳しい展開となりましたが、何とか三種目とも東海大会出場権を獲得してくれました。当日までの選手の頑張りはもちろんですが、当日の泳ぎがとても素晴しかったです。「絶対に東海大会に出場するんだ」という気持ちが表れる泳ぎで、この3年間の中で一番良い泳ぎ、一番見ごたえのあるレースをして



来年度の課題として、部員数の増加という課題があります。現在、男子二名、女子三名という少数になつてしまいい、練習自体が少しく寂しく感じるようになってしまいました。また、このままの人数では、男女ともにリレーに出場することさえできません。部を盛り上げるために、リレーに出場するためにも、一人でも多くの部員に入部してもらいたい。そして、水泳の楽しさを伝え、顧問、部員一丸で頑張り、男女とも個人リレーでの東海大会出場を勝ち取ることを目標です。来年度も応援、よろしく願います。文責：曾我純一(50回生)



【県総体(6月)・東海大会(7月)の結果】

◎県高校総体水泳競技大会(6月)			
西戸 悠人(3年)			
男子50m自由形	第3位		
里見 治樹(3年)			
男子400m自由形	第7位		
池戸 美遥(2年)			
女子50m自由形	第3位		
女子100m自由形	第4位		
男子400mリレー	第7位		
西戸悠人・原航平・里見治樹・藤井裕真			
男子800mリレー	第8位		
里見治樹・原航平・藤井裕真・西戸悠人			
男子400mメドレーリレー	第6位		
西戸悠人・原航平・里見治樹・藤井裕真			

◎東海高校総体水泳競技(7月)			
西戸 悠人(3年)			
男子50m自由形	出場		
里見 治樹(3年)			
男子400m自由形	出場		
池戸 美遥(2年)			
女子50m自由形	出場		
女子100m自由形	出場		
男子400mリレー	出場		
里見治樹・藤井裕真・志津隆一・西戸悠人			
男子800mリレー	出場		
里見治樹・西戸悠人・原航平・藤井裕真			
男子400mメドレーリレー	出場		
西戸悠人・原航平・里見治樹・藤井裕真			

ウェイト
リフティング部
頑張ってます

平成二八年三度卒業生の活躍
平成二八年三月に行われた第三回全国高等学校選抜ウェイトリフティング競技大会二〇五kg級で太田壮が七位になりました。

二八年度に入り県高校総体団体三位、個人では一〇五kg級太田壮が優勝しました。六月に行われた東海高等学校総合体育大会では団体七位、一〇五kg級太田壮が二位、九四kg級若森勇樹が三位に入賞することができました。一月の東海高等学校選抜大会では女子藤井優衣が優勝、男子も七七kg級松浦航己で三位に入賞しました。

は優勝二名、二位四名、三位一名と個々の力が上がってきました。六月の東海総体団体で七位、個人二位・三位・五位・六位入賞一名ずつとなり、徐々に成果を上げています。七月の東濃地区総体では団体優勝し、優勝旗を持ち帰ることができました。全国大会では男子松浦航己が七七kg級で出場、女子は藤井優衣が出場しました。

平成二六年度から中津高校OBで顧問に小栗和成が就任しました。インターハイ優勝、ソウルオリンピック七位入賞の実績を持ち、現在小栗・川畑の両顧問とも全国大会優勝者が指導者となる全国にも数少ない練習環境の整った状況になっています。また中田高広先生も週に一



文責：川畑 力大

吹奏楽部

部活
地域に愛される吹奏楽部

中津高校吹奏楽部は創部六八年を数え、OB・OG数は一二〇〇名を超えています。私は赴任して九年になりますが、その内最も多い学年は四九名という年もありました。毎年三〇人前後の部員を迎え、活発な活動を展開しています。

【地域貢献活動】

中津高校の柱ともなっている「地域に根ざした教育活動」の一翼を担っているのが吹奏楽部です。年二回行われている「中山道まつり」への出演や、成人式での演奏などもあります。また秋の恒例となりました「中津川♪親子で音楽を楽しむ会」とのタイアップ事業「ピクニックコンサート」では、今年中津川市保育園PTA連合会も共催に加わり、未就学児家族向けのコンサートを開催しています。毎年楽しみにして来場くださる家族連れが年々増加。今年は三〇〇人という盛況ぶりで、中津高



苗木中学校合唱祭にて

校の中心が満員の笑顔であふれていました。特筆すべき活動は中津川市・恵那市の学校で開催される演奏会です。訪問先の学校の合唱とのコラボレーションや楽しい演出などで、年々依頼が増えていきます。ここ二年間の公演先を挙げてみても、中津川幼稚園、苗木小学校、福岡小学校、高山小学校、大井小学校、苗木中学校、落合中学校、福岡中学校、恵那北中学校、恵那特別支援学校などへ赴きました。秋から冬にかけては休日もないほど、アイドル並みのスケジュールですが、本校の部員も懐かしさや演奏への反響などを、たいへん楽しみに

【卒業生との密な活動】

本校吹奏楽部は全国にも稀に見るほど、OB・OGとの関わりが強く、また良好な関係を保持しています。四〇年ほど前まで活発に行われていたOB会の活動は一時途絶えましたが、十年ほど前に立て直しの声が上がリ、OB会機関紙「ろんぐとん」を復活させるなどの活動が再開しました。五年前には部室の老朽化を見るに見かねたOBの方々が発起人となり、部室の改築を行っていただきました。全国のOBから寄付を募り、不足分は同窓会から費用を借り受け、現役部員が練習に打ち込める環境を整備していただきました。そうした



オータムコンサート OBとの合同ステージ

結びつきから、年に一度OB・OG、現役合同の「オータムコンサート」を開催しています。OBで編成された「旭ヶ丘吹奏楽団」、現役部員のステージ、最後は合同演奏を行い、十五歳から六〇代後半の百人を超すメンバーの大合奏を行っています。ぜひ一度は聴きにきていただきたいです。その他の交流として、定期演奏会の前日や機関誌「ろんぐとん」の発行日には、OB手作りのカレーライスを二〇〇食ほど振る舞っていたいたり、定期演奏会での合同演奏なども行っています。合同の練習を通して、同じ目標に向かって練習することにより、世代の隔たりもなく、交流が深まっています。

顧問の私自身も中津高校吹奏楽部のOBです。今は教員として、また先輩として、全国に誇れる人の結びつきの中で音楽を奏でられる幸せを日々感じながら、諸先輩方に感謝し、そして今後もこのような生徒の輩出に力を注いでいきたいと思っています。

顧問 高橋俊和 32回生

硬式野球部

『夢中』

今、夢中になっていること。勉強、部活動、好きな歌手……。高校生ならそんなところだろうか。

大人になるとどうだろうか。仕事、子育て、趣味……。経験と共にその内容は変わるだろう。中津高校硬式野球部が発足してから、十年の月日が過ぎた。その間、野球部に関わる場所でも多くの夢が生まれた。その中には、夢中になって応援してくださった方もいる。この場を借りて、心より感謝申し上げます。ある選手の高校三年次の春季地区大会敗戦直後のノートにこんな記述があった。

「一回に点を取られた時に僕は気持ちが悪かったです。それが分かったので『切り替えないと

【応援される】

いけない』と思ったけど、壁に出ても点は入らないし、相手の流れを切ることもできなくてそれで余計に腹が立つてしまっていました。みんなは攻めようとしていて、僕は全くそんな気になれませんでしたが、みんなは変わらず声を出して、みんなのおかげで『やってやる』という気持ちになれました。その時はこっちに流れが来て、点も入りました。でも僕は、先生に声をかけられても言葉が耳に入ってこないような状態でした。そんな状態で打席に入ったら、スタンドから母の『航一、決めるー!!』という声が聞こえて、それを聞いた瞬間にバツと集中できてヒットを打つことができました。嬉しくて泣きそうになりました。野球は一人でもやるスポーツではないというのを、野球を始めて十年目になっても改めて教えてもらいました。」

前任校の瑞浪高校で、十三年連続初戦敗退を続けていた夏の県大会において、ベスト8に勝ち上がった時があった。当時部長だった私は、ベスト8に残った試合の翌日、近所の喫茶店待望（たいむ）に入った。友人とコーヒを飲んでいたら、瑞浪高校の活躍や近所の子どもの活躍を話す嬉しそうな声、もしかすると甲子園も夢じゃないかもという期待のこもった声が自然と耳に入ってきた。甲子園という夢を待ちわびているのは、どの町も同じかもしれない。もちろん、甲子園という夢に向かうのは、どの高校も、どここの高校球児も同じだろう。その夢の中にいる高校生は、とても輝いている。夢、



慶應義塾高校招待試合会場にて

それは人を輝かせてくれる。夢中、そこに人間の魅力がふれる。そんな魅力的な人間になつていくこと。それは三〇歳になっても、五〇歳になっても、八〇歳になっても、今という時間を夢中になつていけば、叶えられることかもしれない。そんな光り輝く人生の準備を、野球を通して訓練しているのかもしれない。

少子化、過疎化、孤独死。これからの日本、特に地方で真面目に受け止めるべきではないこの課題に、これからの地域社会を担っていく高校生が向き合い、行動していける、それが私たちの願い。

こういう人物がますます求められている。

毎年オフシーズンになると、中津商業高校、中津川工業高校の野球部と共に、小学生対象の野球教室を行っている。純粋な気持ちの小学生と向き合う高校生は、かなり大人びて見える。今の自分を見直す子（大人？）や、小学生と触れ合うことで若返る子（大人？）や、少年野球教室を通して、夢中を思い出した子（大人？）が多い。

また、ここ二年、中津川市トッポアスリート交流事業として、慶應義塾高校を招待しての試合を行っている。慶應義塾高校は、我々が夢に見ている甲子園に、この春出場する強豪校だ。第一試合が〇対13、第二試合が〇対3。もしかすると……を期待する多くの方々のご観戦があったが、未だ甲子園への道は遠いか……と実感させられる機会となった。

今、夢中になっている野球が、

防災についての取り組み

「高校生防災士」

近年、防災士の資格を取得する生徒が何人かいます。中津川市にあるNPO法人チームみらい中津川市防災市民会議（加藤吉晴代表）が立ち上げた「東海防災青年塾」に参加している生徒です。平成二七年度は六人、平成二八年度は三人が参加し、全員が合格しました。今年度は五人が塾に参加し、資格取得のために様々な勉強や活動に参加しています。資格取得生徒は校内で様々な防災活動を行ってくださいます。昨年の校内避難訓練の際は、防災講話をしてくださいました。今年度の旭陵祭では、避難所で使える段ボールのベッド、テーブル、イス（NPO法人チームみらい中津川市防災市民会議が制作した）やうねるボックスなどを紹介する防災ブースを作るなど、校内での活躍が見られます。



「被災地支援」

七月に起きた九州北部豪雨、秋田豪雨の支援として、掃除に使うためのタオルを全校生徒から集め、NPO法人チームみらい中津川市防災市民会議の加藤さんに被災地に届けてもらいました。防災リーダーである二年生の石原君が中心となり集会で全校生徒に呼びかけをし、翌日には二二〇〇枚という大量のタオルが集まりました。各クラスでタオルをまとめ、メッセージを書き、被災地に送りました。

文責：曾我純一（50回生）

定時制の生徒の活動

【部活動】

中津高校定時制バドミントン部は現在男女合わせて五名の部員が所属しています。基本的には授業の終わった二〇時四十五分から二時四〇分の一時間程度練習しています。昼間仕事をしていたり、帰宅時間の制約もあり、なかなか全員そろって練習をすることはできませんが、それぞれ自分のペースで取り組み、力を伸ばしています。県大会ではなかなか勝てませんが、試合に出場したときの喜びや悔しさが意欲を生み、日々の充実した練習につながっています。頑張れ、中津高校定時制バドミントン部!!

同窓会を中心とした「中津高校定時制部活動を応援する会」をはじめた皆さんの方々の支えによって活動ができています。この場を借りてお礼申し上げます。

【文化祭「旭星祭」】



芸術鑑賞会



カレー会

定時制では九月の終わりに二日間かけて学校祭を行っています。一日目の文化の部では、クラスごとに夏休み明けから約一ヶ月かけて準備した成果を発表します。今年度は、一年生は和太鼓演奏「中津川太鼓」、二年生は「モザイクアート」未来をつかむ、三年生は「会場の飾り付け」、四年生は「ダンスと動画作成」「踊ってみた」に取り組み、職員も「トーンチャイム演奏『星に願いを』」に挑戦しました。当日は保護者の方をはじめ地域の方々など五〇人ほどの方にご来場いただきました。文化の部終了後には、保護者の方々の協力を得てカレライス会食会が行われました。発表の感想を述べ合うなどして、生徒たちにとって良い交流の場となったようです。二日目は芸術鑑賞の部として、「ザ・リタ・アールズ」の皆さんのバンド演奏を聴きました。普段あまり聞かない目の前で聞かれる生の演奏に、心地よい時間を過ごすことができました。

文責：奥村秀雄



バドミントン大会

《試合結果》
・東濃地区定通総体
五月十四日(日)場所：中津高校
男子シングルス 丸山郁弥 準優勝
男子ダブルス 丸山・市川(東濃フロンティア高)組優勝
・岐阜県定通総体
六月三日(土)場所：大垣市総合体育館
男子シングルス 北瀬貴大 二回戦進出
東濃地区定通秋季大会
一〇月八日(日)場所：中津高校
男子シングルス 丸山郁弥三位、北瀬貴大三位、安江蓮哉 出場
男子ダブルス 丸山・北瀬組 優勝
女子ダブルス 遠藤・三溝組 出場



中津川太鼓



バーベキュー



餅つぎ大会



文化祭 3A



予饗会



進路講話



うどん打ち大会



修学旅行

一年生中津川市内企業見学会について

中津高校は地元に進学先として大学進学などを中心とした進路指導を行ってきました。進路行事には大学や研究所にいく秋季研修や、二年生のインターンシップなど体験的な行事を多く取り入れています。平成二七年度中津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業の中核となる地元定着推進施策の中に産業事情視察支援事業があり、本校の生徒に地元中津川市の企業を知ってもらう機会を増やし、大学卒業後の就職について中津川で就職することを選択肢の一つに入れるため、平成二八年度より一年生中津川市内企業見学会を企画しました。この会の趣旨を「普通科高校におけるキャリア教育の一環として、企業が必要とする人材や大学へ行くことの意味など市内企業見学会を通して先輩卒業生の経験に基づく企業人のあるべき姿を知ることによって将来を見据え、大学で何をどのように学ぶかを考えるきっかけとし、将来地元で活躍できる人材を育成する」として各企業に協力をお願いしました。協力願

は市役所工業振興課でジョブナビに参加されている企業にメールで行いました。二〇社以上の企業に賛同していただき、訪問する企業を十二社選考しました。訪問するクラス担任が夏休み中に事前訪問し、企業見学会の内容について打ち合わせを行いました。また事前準備・本番として下記のような取り組みを行いました。

一、企業見学会の校内学習会
日時 九月五日(火)七限目
目的：今回の企業見学会の目的・趣旨を理解させ、自分が社会人になり中津川で働くということはどういうことなのかという考えを深めさせる。
(一)担任より見学会について説明を実施。
(二)企業先の質問内容を考える。
(三)一年生中津川市内産業事情視察企業見学会
日時 九月七日(木)
日程 企業見学会 各クラス(三六・三三・三二)バス六台に分かれて実施
13時10分～14時30分 1社目見学会
15時00分～16時20分 2社目見学会

二、企業先の質問内容を考える。
(一)担任より見学会について説明を実施。
(二)企業先の質問内容を考える。
(三)一年生中津川市内産業事情視察企業見学会
日時 九月七日(木)
日程 企業見学会 各クラス(三六・三三・三二)バス六台に分かれて実施
13時10分～14時30分 1社目見学会
15時00分～16時20分 2社目見学会



進路講話



進路講話

業種	会社名
NO1 製造業	富士通テックファクトリー株式会社
NO2 製造業	株式会社NSP SSS
NO3 製造業	恵那眼鏡工業株式会社
NO4 製造業	株式会社恵那金属製作所
NO5 製造業	DAISEN株式会社
NO6 製造業	株式会社中央物産
NO7 製造業	株式会社恵美製作所
NO8 建設業	株式会社吉川工務店
NO9 商業	株式会社サラダコスモ
NO10 製造業	名古屋技研工業株式会社
NO11 商業	東美濃農業協同組合
NO12 製造業	美濃工業株式会社



進路講話

中津高校卒業生の話聞いて、私から取り組んでいこうと思ったのが、学校生活の中で一つでも頑張ったといえる物を作ることです。今の私はどのことに対しても、特に頑張っていることはあまりなく、全て平等にやってきました。どれか一つでも特に頑張ったということを作って、それを自信にしていける将来仕事に就くための動機にしたいなと思います。

文責：小栗和成(34回生)

母校に作品寄贈 鹿島俊弘氏（10回生）インタビュー

《中津高校への絵画の寄贈を頂きまして、ありがとうございます。まず、一枚の絵についてモチーフや制作のきっかけ、思いなどを聞かせて下さい。》



「CHAOS」 私たちが今住んでいる地球は一三八億年前の宇宙のビッグバンによる混沌状態から発しています。そしてその後、営々と築かれた緑の地球は今再び、混沌に向かおうとしているかの様に思われます。国内では、原発事故による荒廃、大地震による災害、温暖化による生態系の破壊、また世界に目を向ければ不毛な戦乱とそれに伴う難民が日々生命の危機にさらされています。こんなことを危惧しつつ描いたものです。



「恵那山」 私は高校卒業と同時に県外に出ました。高校時代というのは人生全体で見れば高々1/25に過ぎないが、それは大変重たいという印象があります。それは最も多感な時期である

かったこと、辛かったことは何ですか。《何かを志す生徒の参考になることだとありがたいのです》
私はこの一〇年余り多くの公募展や美術団体に出品してきました。うれしかった例としては二〇〇九年にボザール展で入賞したこと、二〇一三年に光陽会で新人奨励賞を貰ったこと、二〇一六年に湖国を描く展で入賞したことなどが挙げられます。また、四年前から国内でトップクラスの新作展で入選を重ねていることもうれしいことのひとつです。しかしながら、私の画歴の中ではこの様なことばかりではなく、まさに山あり谷ありでした。いろいろな公募展で入選入賞を目指したが果たせなかったことも少なからずありました。その度に相当落ち込むこともあったのです。私の人生の大半は研究生活でしたが、その後関わる様になった絵画の世界はそれまでのサイエンスとは異なり相対評価であることに起因しています。一般的にもこの様なことは多々あるかと思っています。そ



校長先生（左）と作者の鹿島俊弘氏

の様な時には何時までもそれに拘るよりある時に見切りを付けて、自分に合う新たな目標を探すのが賢明なのではないでしょうか。人生の解は一つではないということですが、自分に合った別の道を行くのも立派な人生であらうと思うからです。

《鹿島さんが在学中の中津高校の様子や思い出を教えてください。》
当時のことは余り思い出すことは出来ないのですが、強いて何かと言われれば松原先生の指導で絵を描いたことでしょうか。何よりも一番印象に残っていることは先生方のことです。数学の土屋、松井、国語の勝野、青山、高木、化学の石田、糸魚川、物理の篠原、英語の菅井、間、加藤、社会の山田、各先生などです。今でもそれぞれの授業の場面を鮮明に覚えていることに自分でも驚かされます。もう既に亡くなられた方々が殆どですが、この時代にこのような素晴らしい先生方に巡り会えたということに深く感謝しています。中でも石田先生には私が化学の道を歩むきっかけを作って頂いたと考えており、感謝と同時に感慨深いものがあります。

《今後の制作活動の展望などがあれば教えてください。》
最初は外国の風景などを多く扱っていましたが、最近はずっと公募展を目指してテーマ性のあ

あの先輩！この後輩！

映画「君の名は。」プロデューサー 伊藤耕一郎氏インタビュー



《君の名は。》の大ヒットおめでとうございます。一年以上経った今もいろいろなところで話題になるほどの名作だと思います。生徒たちにも私なりの感想・解釈を話したり、生徒たちの感想を聞いたりしました。どのクラスでも何人もの生徒が劇場で観ていたというのは、映画館のないこの地域にしては初めてのことで。若者から年配の方まで多くの人の心をつかみ、さらに

《まず、「君の名は。」に関わりたいきさつやどんなお仕事をされたのか教えてください。》
「君の名は。」における私の肩書きはプロデューサーです。プロデューサーという仕事の持つイメージはなんだかふっと曖昧で多くの方には馴染みのない

社会現象としても話題となる名作であると思います。その映画に中津高校の同窓生の伊藤耕一郎さんが大きく関わっていることはしやつたことには私たちが同窓生も大変うれしく思っています。さて、その伊藤さんにお話を伺いたいと思っています。

《君の名は。》の制作で苦労されたことエピソードなどがあれば教えてください。》
たぶん当時はいろいろな苦労があったように思うのですが、「君の名は。」スタッフは多くの素晴らしい人材に恵まれ、結果、語るに足る苦労エピソードはないかもしれません。《笑。》です。今作品では苦労話よりもむしろ脚本と絵作りと音楽と声と、すべての分野で神がかったスタッフフィングとキャストイングが出来たことが、私の中では特に印象的でした。ちなみに作品のタ

イトル「君の名は。」は、私が強く押してこのタイトルになりました。《君の名は。》のプロデュース以外ではどんなお仕事をしていらっしゃるのでしょうか。》
以前はCWFでアニメーション映画やCMやPV等のプロデュースをしていましたが、現在の私は、独立して個人会社で同様な仕事をしております。

《今度は、高校時代のお話をお聞きたいと思っています。高校生活で印象に残っていること、思い出などがあれば教えてください。》
《今度は、高校時代のお話をお聞きたいと思っています。高校生活で印象に残っていること、思い出などがあれば教えてください。》
学生時代の私は、そこらにいる平凡な学生のうちのひとりです。その頃の思い出といったら、明けても暮れてもバスケット、部活一辺倒だったように思います。あとは、化学が得意で、大学受験のためひとりで放課後、実験室を借りて何かしら実験させてもらってたような記憶も《笑。》。実際、大学進学は化学専攻で、社会人なりたての私も某メーカーの研究

恩師 訃報

ご冥福をお祈り致します

- 伊藤信吉先生
平成二八年二月四日ご逝去 九二歳
定・昭和四一年から四四年
全・昭和四五年から四九年理科・数学教諭として在籍
- 太田浩二先生
平成二八年二月十五日ご逝去 九四歳
定・昭和四六年から四八年国語（主事）教諭として在籍
- 西尾英吉先生
平成二八年二月十五日ご逝去 九四歳
全・昭和四一年から五一年社会教諭として在籍
- 小池 昭先生
平成二八年十一月一〇日ご逝去 九〇歳
全・昭和五四年から六一年図書館司書として在籍
- 小島弘邦先生
平成二九年七月四日ご逝去 九六歳
全・昭和二四年から三〇年国語教諭として在籍
- 伊藤克己先生
平成二九年十一月一日ご逝去 七五歳
全・平成九年から一一年社会・教諭・教諭として在籍
- 大宮義章先生
平成二九年十一月五日ご逝去 八二歳
全・昭和四八年から五〇年数学教諭として在籍
- 柴田 満 先生
平成三〇年二月一日ご逝去 八五歳
全・平成元年～四年 平成六～七年 国語教諭として在籍



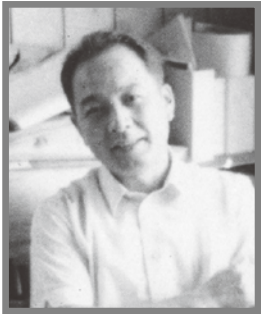
1984 (S59) の職員室

る絵を描いています。現在は新しい制作展が中心ですが、ここは大きな絵が主力でもあります。私もこれから益々年を取りますが、この先何時まで続けられるかと考えながら活動しています。またその内に小さな風景画なども考えています。

Profile
1940年中津川市生まれ。大津市在住。
1959年中津高校卒業（10回生）。
1964年東洋紡入社、総合研究所他。
1983年工学博士 京都大学。高分子化学。
1990年、約十年間超電導分野の研究に従事。極低温材。
2000年東洋紡退社。
2001年、京都工芸繊維大学、静岡大学客員教授、講師。
2007年、上野の森 日本自然を描く展、ボザール展毎年入選。
2009年第三回ボザール展滋賀県知事賞。
2010年、湖国を描く展毎年入選。
2010年、光陽展毎年入選。
2012、2014年賞候補。
2013年第六一回光陽展新人奨励賞会友。
2014年光陽会退会。
2014年、新作展展初出品初入選。以後毎年入選。
2016年、読売新聞社賞。
この間個展3回開催。

恩師 追悼

西尾英吉先生を偲ぶ



山内 和幸 (18回生)

東京向島の町工場や赤坂の洋食レストランで働いたみね子さんにはわかってくれますね。

NHK朝ドラの谷田部みね子さんが北茨城から集団就職で上野駅へ降り立ったころ、私は北恵那沿線の片田舎で慢性の腎臓病のために淡い将来の夢を奪われた人生を恨みつづ、みね子さんと同じように当時そこらへんに転がっているようなあたりまえの貧しさと、しかし温かい家庭と親切な近所さんの励ましの中で必死に生きていました。みね子さんのように学校を卒業したら働いて親に仕送りするということが特別でなかった時代、わざわざ中津の高校へ行かせてもらうことがどれほどだったか、

恩師 追悼

小池先生を偲んで



古田みづほ (34回生)

とありましたが、今のうちにネットなど無い時代ですので、何でも本から学ぶしかありませんでした。友だちも要らないと、すぐに図書室通いを始めました。読書も好きでしたのでどんな分野の本でも関係なく、片っ端から読んでいまし

本日は、小池先生のことを「小池先生」と呼んだことは一度もありませんでした。中津高校の図書室で司書の仕事をされていたので初めてお会いしてからずっと「司書さん」と呼んでいました。いつの間にか職業の「司書さん」から名前としての「シシヨさん」に変化していったように思います。私は、落合中学から中津高校に入り、落合中学から中津高校に入る女子は落合中学からはそれほど多くありませんでしたので、変わり者の私は、話が合う友達を作るのがなかなか大変だなと思っていました。私は、自分の好きなことが色々

地味な話なので、聴衆も僅かだったのですが、私は最前列で先生の一言一言をむさぼるように聴き入りました。今思うと先生の話はかなり大風呂敷をかけたような感じがありましたが、私の好奇心をさらに高めることになりました。この時すでに西尾先生は私の進むべき道に確かな灯をともして下さったのだと思います。以来私は古代東山道やその駅家などを探るようになり、先生の説とは若干異にする詳細な推定ルート(坂本のうとう坂から上金新田まで)を中津川市文化振興課埋蔵文化財係に示すことが出来ました。

昭和四五年秋、教員採用試験に合格したことを担任の二村先生や部顧問のイトチュー先生、わがやうすい授業で印象深い磯部先生、鷹見先生などを差し置いて、真つ先に報告したのは生徒指導室の西尾先生でした。これからの高校生活はたいへんやけどがんばってやりなさい」と木造校舎の一室で穏やかな笑顔でおつしやつた姿を今もはつきり覚えておつています。あれから四〇数年「山内君、赤

嫌だったからです。図書係になり、古本市を企画したりして、ますます図書室通いに拍車がかかりました。夏休みのことだったと思います。夏休みも図書室通いをしていた私が、坂東三三郎の舞台を見たいとあったことがありました。外国かぶれの私でしたが、日本の古典文学や、芸能、竹久夢二の絵も好きでしたので、坂東三三郎の新作「長崎十二景」が見たかったのです。「司書さん」は、「私も行きたい。お金出してあげるから、今から御園座にチケット買いに行つてくれる？」と、言つてお金を渡して下さいました。私は嬉しくなつて、そのま

田の意味がわかったよなどと私が眠りに着いた真夜中に先生は興奮気味に電話をされることになりました。今思うと先生の話はかなり大風呂敷をかけたような感じがありましたが、私の好奇心をさらに高めることになりました。この時すでに西尾先生は私の進むべき道に確かな灯をともして下さったのだと思います。以来私は古代東山道やその駅家などを探るようになり、先生の説とは若干異にする詳細な推定ルート(坂本のうとう坂から上金新田まで)を中津川市文化振興課埋蔵文化財係に示すことが出来ました。

昭和四五年秋、教員採用試験に合格したことを担任の二村先生や部顧問のイトチュー先生、わがやうすい授業で印象深い磯部先生、鷹見先生などを差し置いて、真つ先に報告したのは生徒指導室の西尾先生でした。これからの高校生活はたいへんやけどがんばってやりなさい」と木造校舎の一室で穏やかな笑顔でおつしやつた姿を今もはつきり覚えておつています。あれから四〇数年「山内君、赤

嫌だったからです。図書係になり、古本市を企画したりして、ますます図書室通いに拍車がかかりました。夏休みのことだったと思います。夏休みも図書室通いをしていた私が、坂東三三郎の舞台を見たいとあったことがありました。外国かぶれの私でしたが、日本の古典文学や、芸能、竹久夢二の絵も好きでしたので、坂東三三郎の新作「長崎十二景」が見たかったのです。「司書さん」は、「私も行きたい。お金出してあげるから、今から御園座にチケット買いに行つてくれる？」と、言つてお金を渡して下さいました。私は嬉しくなつて、そのま

恩師 追悼

大宮義章先生



山本 完六 (12回生)

ありがとうございます

やがて先生は県教育委員会や岐阜高校へ行つてしまわれました。本日に長い間岐阜県全体の教育に尽くされました。先生は、その長い長い間、単身赴任でした。私が先生に「奥様を連れて行かれたら」と言いましたら、「女房は、家に飼っている猫が大事で、中津の家で猫の面倒を見なければならぬ」と言うから岐阜へは連れて行けない。などと、嘘とも本気ともわからないことを言つておられました。それから、私が赤福を見たり食べたりする時、必ず思い出すことがあります。それは、先生の奥様にお会いしたとき奥様が「ねえ、山本先生、私が一人暮らしなのに、あの人は伊勢に行つてきたからと、赤福を五〇個も買つてみやげに

私がお先生と初めてお会いしたのは中津高校勤務の時です。先生は数学をはじめとしてホームルームの指導など、非常に熱心におやりになり、すべてに成果をあげてお

さん」が病気をされ、入院されているという状況を知りました。病院に行くく、体が不自由になつたシシヨさんが寝ておられました。病状はいい時と悪い時があるようでした。「みづほやよ」というとパツと目を輝かせて笑つて下さいました。休みになると、度々二胡と親睦旅行なども乗せて行つてくたさいました。先生の自動車は結構古くて、自動車のそとが錆びて空気が入ってきたことも、先生との楽しい思い出です。また、私が岐阜へ単身赴任の時、昨夜も今日もご夫妻で参列しておられます。篠田幸雄先生たちと「祇王」という喫茶店でよくコーヒを飲んでお話を聞かせて下さいました。先生は、先生は先生地区の多くの先生に



関東OB会だより
平成二九年度 中津高校関東OB会総会

関東OB会会長 青山伸昭 (23回生)

平成二九年度中津高校関東OB会総会は十一月十一日(土)に、今回は場所を変えて「ルポール麹町」で行われました。昨年同様、一〇〇名以上の皆様に参加いただき、盛会となりました。今回は新制中津高校初代生徒会長の間誠三先輩(一〇回生)、また最若手として宗野さんご夫妻(54回生)に初参加いただき、今まで以上に年次の幅が広がり、関東OB会活動の底辺の拡大につながるものでした。加えて、今回より、関東在住の東濃地区出身者の交流を深めるために、恵那高校同窓会長の伊藤様、瑞浪高校同窓会長の小栗様にもご参加いただきました。このように、今回の総会は年次を超えて地域を超えて関東OB会活動の活性化を実感できるものとなりました。

総会自体は、上記のように多くのかつ幅広い皆さんの参加をいただき大変盛り上がりしました。まず来賓の水野同窓会長、宮川教頭、中津川市を代表して28回生の西尾さんの挨拶から始まり、17回生の熊谷守一記念館館長の小南先輩による熊谷守一の紹介(三月に山崎努主演の映画が公開されます)で盛り上がり、恒例の郷土産品の抽選会で最高潮に達し、最後に全員の集合写真を撮って閉会となりました。その後は別れを惜しみつつ、三々五々の解散となり、二次会以降に行きグループも散見されました。



平成二八年七月三日(日)「世界を代表する二〇の建造物」に選ばれた梅田スカイビルの中料理店「燦宮」で、平成二八年度関西旭陵会の総会および懇親会を開催いたしました。

当日は中津高校から顧問校長先生と同窓会担当松木先生、中津川市役所から定住推進部片田部長に来賓としてお越しいただきました。

出席された会員は合計二五名と年々減少傾向ですが、中には八五歳の最高齢の方もおられ元気な方々にお集まりいただきました。懇親会後は「空中庭園」展望台から三六〇度の雄大な景色を眺めることができました。

当会では長年ご苦労いただきました加藤絨一支部長のご勇退に伴い、昨年度から新しい幹事で運営していくこととなりました。今後の同窓会の方向性を模索する一環として、ほぼ同世代だけで同窓会を開催した結果、沢山の初めに参加される方が来られ大成功に終わりました。

平成二九年度は、十一月二六日に開港一五〇周年の神戸の街を歩いてみました。

北野異人館街で風見鶏の館、萌黄の館を見学し、貿易センタービルでランチと懇親会。

旧居留地に散策しながらメリケンパークへ。クルーザーで港巡り、最後にポートタワーへ上り、神戸港の夜景を眺めました。当日は、今井校長先生と同窓会担当松木先生にもご参加いただきました。全員で十六名と参加人数は少ない結果でしたが、神戸の歴史を勉強することができました。



●平成三〇年度
中津高校
同窓会総会
■五月十二日(土)
会場は未定
幹事 28回生・38回生
多数のご参加をお願い致します。

★平成三〇(2018)年
七月七日(土)午前十一時
会場は未定
同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

定時制四分校・本校
交流懇親会
★平成三〇年度は苗木分校の
幹事で十一月開催予定
苗木城見学もあります。多数の
ご参加をお待ちしております。

旭陵ゴルフコンペ
平成三〇年九月二十三日(日)
ユージュリー
中津川市苑子川天八八一五四
ユージュリー中津川ゴルフ倶楽部
TEL 0573-686111

平成三〇年度
関西旭陵会
七月二日(日)十時~十五時
会場 第一部 吉本新喜劇劇場 西梅田劇場
第二部 総会懇親会 カフエリアM
(大阪市淀川区中崎)

平成三〇年度
関東OB会
十月十日(土)
会場 ルポール麹町
(東京都千代田区平河町)
幹事 25・26・27回生

第14回地区総会
名古屋地区会
平成三〇年十月十三日(土)
■受付時間
■講演会 三時三十分~五時半 十八時十分
会場 ローズコートホテル名古屋市中区
連発 060-467-1735(市川)

名古屋地区会だより
同窓会と同級会

年次幹事 市川泰生 (19回生)

一昨年十月、第十三回中津高等学校名古屋地区同窓会が名古屋市内のホテルで開催されました。隔年開催で四半世紀になります。名古屋地区同窓会の存在も知らない十三年前、同窓会案内が来て何気なく出てみようかが始まりました。最も若い年代のひとりでした。

大野竜三先生の講演に続き、懇親会が始まりましたが、同級は他に一人、あと知り合いは一回り上の従兄弟一人でした。同級会とは全く雰囲気違い、特に先輩諸氏は欲談されていたのが印象的でした。あれから十年余、昨年の同窓会もあの時がスリッパした雰囲気会場に満ちていました。

私を含め若年(七〇歳以下)の出席が少なくなっているのが気がかりです。故郷中津川から離れた先輩諸氏や関東・関西地区会の皆さんが故郷を懐かしむ気持ちの強さに違いもあるかもしれません。同じ町や集落の先輩後輩、同級

の友と、恵那の山や川、校舎から見下ろす中津のまちを語り合いながら、ひと時を過ごすのも楽しい思い出になると思います。同窓会が同級会に広がっていくのではないでしようか。

平成最後の第十四回同窓会、平成三〇年十月十三日(土)午後開催します。ご案内できる方には限りがあり、お友達に声をかけていただき大勢の中津川人が集うことを期待しております。

2016.7.3
関西旭陵会
平成二八年七月 関西旭陵会総会



平成二八年七月 総会で校歌斉唱

平成二八年十月 医師・早川純午氏 (22回生) の講演



第14回地区総会
名古屋地区会
平成三〇年十月十三日(土)
■受付時間
■講演会 三時三十分~五時半 十八時十分
会場 ローズコートホテル名古屋市中区
連発 060-467-1735(市川)

平成二九年度 中津高校同窓会総会

去る五月十三日(土)に、平成二九年度同窓会総会を開催しました。近年、商工会ホールをお借りして、総会および懇親会を行っていましたが、今年は会場の確保ができませんでした。以前行っていたように勝宗さんをお借りして、総会・懇親会を行わせていただきました。参加者は五〇名程度と例年よりやや少なめではありましたが、名古屋地区会、関東OB会、関西旭陵会からのこ



懇親会 吉川元会長乾杯 旭陵留学の現状報告 岩本元教諭の指揮で校歌斉唱 同窓会総会懇親会風景

平成二九年度 中津高校定時制総会

平成二九年度定時制同窓会総会が七月一日(土)、十一時より星ヶ見荘において開かれました。

新役員体制での初めての総会で今井三三校長、松井千昭副校長、西尾靖彦教諭様のご出席をいただき総勢二名により、新役員

の緊張の中、無事終えることができました。鶴岡俊之副会長の司会に始まり、事業予定においては安江博二副会長より来年度の総会、定時制創立七〇周年の節目となり記念総会として検討していくことを提案し了承されました。また、松井副校長より「部活動

を応援する会」の経過報告があり、バトミントン部に一年生の二名が入部し今後も部活動が継続できること、春季東濃地区大会において他校の生徒とペアを組んだ四年生が優勝したことなど報告されました。懇親会では、古田精廣副会長の進行により、学校の近況報告、全参加者の一言近況報告などを行い、最後に校歌を斉唱し懇親会を終えました。



平成二九年度 中津高校定時制同窓会総会 2017.7.1 星ヶ見荘

平成二九年十一月十八日(土)定時制本校・分校交流会が、幹事校である福岡分校の地元『さるとび』において、今井三三校長、松井千昭副校長、西尾靖彦教諭様の来賓をはじめ総勢二九名により行われました。

交流会の余興では、福岡分校昭和二十七年卒(一回生)志津功さん(八九才)による手品を披露され、卓越した手さばきに拍手喝采を浴びました。

また、昭和二九年卒(三回生)戸嶋正雄さん(八三才)によるハートモ二カ演奏を披露、青い山脈など数曲を参加者の歌声と合わせ演奏され、ハートモ二カの音色に昔懐かしさを感じました。両名とも大変お元気で福祉施設などボランティア活動を今もされております。

最後に交流会の締めは、次回幹事校の苗木分校後藤農平さんから、苗木城見学と合わせて交流会を行いたいとの提案があり、来年の再会を楽しみに閉会しました。

福岡分校代表幹事の深谷正廣さんをはじめ、古田勝一さん、西尾孝平さん、小縣正幸さん、深津一さんの幹事の皆様、ご苦労様でした。



平成二九年六月五日(日)ホテル木曾路にて開催。この十年で四回なので比較的元気な学年でしようか。

一学級五〇人時代だったので一五〇人いたのに案内を出したのはちよど一〇〇人。八二名から返事があり、二九人が参加した。

がんセンターの総長、大手製薬会社の社長、大学教授など、その道で頂点を極めた者。エンジニア、会社経営、小中学校、高等学校の教諭、薬学部、家政学部、保育、看護の道に進んだもの、そして〇し。傲らず、威張らず、勤め上げて今に至る、ということが各人の誇りである。

「喜寿を記念する会」 磯部 彰 (9回生)

二時間半の宴会に終わる校歌を合唱し締めくくった。今回最後の会合として呼びかけたのであったが、これで終わりにしたくないと、来年の六月六日(火)、中津川駅前のレストランで昼食会を行うという提案があった。私たち同級会は、まだまだ続くようである。



第24回旭陵ゴルフコンペ

鈴木立晃(27回生)

九月三日(土)秋分の日に恒例の第二十四回旭陵ゴルフコンペが、中津川市茄子川のユースライン中津川ゴルフ倶楽部で、開催されました。

当日は快晴、夏を思わせる暑さの中でのゴルフとなりました。当初小学校の運動会があったり、ゴルフ場近くの東美濃ふれあいセンターではソーラー武道館が開催されたりと、参加者が少なくなるのではという心配もありましたが、三〇人組一四三名という大勢の方に参加いただき、時折ソーラー武道館の音楽を聞きながら、楽しいゴルフをすることができました。カートの画面に、すでに回っている方のスコアが出るため、誰れがスコア



でまわっているとか、画面から消えたなど一喜一憂しながら、皆さん無事ホールアウトすることができました。

一組目から最終組までは、いつものように二時間以上の待ち時間がありました。飲み物のサービスや五平餅を食べながら、ユースライン中津川ゴルフ倶楽部の永井プロのミニレッスンを受けるなどとおもいおもいに時間を過ごして、パーティーの開催を過ぎ、パーティーの開催となりました。

歴代の回生が司会進行を務めるということで、今年は27回生の島崎さん、榎原さんが司会をし、吉村旭陵ゴルフ会長の挨拶の後、今井三三校長、水野賢、同窓会長にご挨拶をいただき、三尾前同窓会長の乾杯で幕を開けました。尚、青山中津川市長より、御祝辞を頂きました。

優勝は31回生の古井幸二さん、女性優勝は24回生の加藤郁子さんが見事射止め、四名一泊一ラウンド招待券や、ユースライン中津川ゴルフクラブ四名一ラウンド招待券をはじめとする、豪華賞品が次々と渡されました。

締めくくりは、13回生の勝野さんと26回生の鷹見さんの指揮の下、校歌を大合唱、加藤実行委員長の開会のことばで解散となりました。

第18回生ゴルフ同好会模様

吉川 義康(18回生)

第18回生のゴルフ同好会は、毎年定期的に集まりゴルフを楽しんでいます。

今年第一回のゴルフ同好会は、七月九日に木曽駒高原カントリークラブで六名が集まり行われました。

毎年恒例の旭陵ゴルフ大会で好成績を残すことを目標に練習ラウンドを兼ねて行われていますが、功を奏して昨年の旭陵ゴルフ大会では団体賞で優勝を手に入れることができました。

しかし、平成三〇年には皆年齢が七〇歳を迎えるため、なるべく元気で長く、ゴルフを続けることを合い言葉に、毎年ゴルフを楽しんでいます。



三四会、喜寿を祝う

加藤 紘一 (10回生)

昭和三四年卒の十回生DEF組は三四会と名付け、四〇歳頃から定期的に集まりを持ってきた。当初は四年毎オリピックの年に開催で、当年幹事と場所は多くは地元であった。歳を取るにつれこれでは間が空き過ぎたとして二年おきに變更し、幹事も各地区の輪番制とし、地元の他東京、関西、名古屋地区と開催場所を変え、その地のメンバーが幹事となりその地の観光を含めた会の開催を続けてきた。しかし七〇代に入ると、次第にあまり遠くまで出かけるのは大変だとの声が増え、集まりやすい地元中心に同帰してきた。ただし当番は地区輪番制のままとされている。

直近の開催は平成二八年十月、東京地区が当番で場所は中津川。この年は数えて七七歳の喜寿に当たり、十月十三日ホテル花更紗に三九名が集まり、お互いに無事この年を迎えを期待している。



Forever Friends27回生

山田 節子 (27回生)

平成二九年一月二日、恵那峡グラントホテルにて還暦同窓会を行いました。先生方五名を含めて八六人が集いました。

卒業十周年を記念して昭和六一年に第一回を開催してから約五十年に回を重ね今回で八回目となりました。どんなに長くも無沙汰をしていてもほんの一言二言を交わすだけであつという間に気持ち十七歳の頃に戻り、和気藹々と語り合う会となりました。遠方から遠々参加してくださった方初めて参加された方、他に予定が入つていながらその合間を縫って駆けつけてくださった方々、そして毎回楽しみにしてくださっている方々にもこの場を借りて感謝を申し上げます。また次回開催の折には、元気な笑顔で出会えますよう。皆様のご多幸を祈念いたしております。



編集後記

編集委員長

吉田 真 (27回生)

ここ数年、苗木城へ足を運ぶことが多くなりました。初冬、恵那山は雪を頂き、天守閣では僅かに残った柿の実をメジロが啄ばんでいます。ベストショット！テレビで放映されてから、多くの方が苗木城を訪れ、観光バスから降りた皆さんに混ざり天守閣へ登ることもしばしば。眼前には恵那山、足元には木曽川そして旭ヶ丘に母校中津高校の校舎の景色が飛び込んできます。

遠くに見える馬籠の宿場では中津高校の生徒さんが、海外からのお客様さんに通訳ボランティアをされていると聞いています。This is a penで始まった英語教育を受けた私からすると、とても通訳など...

お届けしました「旭陵第十九号」は母校の様子や、同窓生の皆さんの活躍、思い出を伝える大切な役目を担っていると感じ、母校を知っていたく架け橋になればと編集委員みなで取組んでいます。これからも多くの投稿をいただき、広く同窓生の皆さんに知っていただきたいと思っています。今回は編集作業の日程が遅れ、編集委員の皆様にご迷惑をおかけしたことを反省しきります...

中津高校を卒業し、はや三〇年の歳月が流れました。気持ちはまだ若いと信じており、大好きな野球をまだ続けております。三〇年も経過した事に途方に暮れる気持ちで、このお正月を過ごしました。私の高校生の頃はまだ携帯電話はなく、写真を撮ることなど全く日常になく、音楽はレコード盤やカセットテープからCDという音楽媒体へ変わり始めて、一曲でCDが一〇〇万枚も売れる時代に突入して行きました。それが今や、産業革命といわれるインターネットの出現により多くの日常が変わり、他人の撮った写真が世に溢れ、逆にCDは世の中から消え去ろうとしています。そして、仮想通貨という新しい取引媒体まで出現して、この先私たちは日本円で買い物をしなくなるのでしょうか。大きく価値観が変わる世の中ですが、高校時代に味わった野球の楽しさ難しさ、今の自分を形成していると感じる事があり、かけがえのない財産となっており、皆さんは高校時代に築いた財産を大切にされていますでしょうか。



・関東OB会のホームページ
http://www.2s.biglobe.ne.jp/HICUBE/nakatsu/
・関西旭陵会のホームページ
http://kansaiyokuryo.mnetwork.jp/

編集委員

顧問 水野 賢一 (25回生)
佐藤 和男 (定15回生)
吉村美津子 (24回生)
編集委員長 吉田 真 (27回生)
H.P委員長 曾我 望武 (39回生)
委員 阿部 武東 (14回生)
吉川 義康 (18回生)
佐々木義人 (23回生)
長尾 浩一 (24回生)
朝日美智子 (25回生)
山田 節子 (27回生)
野村 充久 (35回生)
尾関 明美 (39回生)
波多野大輔 (48回生)
石原 豊 (49回生)

編集委員

教員 松本 詠史 (30回生)
高橋 俊和 (32回生)
小栗 和成 (34回生)



26回生 (昭和五〇年三月卒業) 鷹見直基 (26回生)

還暦同窓会を開催
八六名が旧交を深める

平成二九年七月十六日(日)午後四時から、市内駒場のパルティールプラスにおいて、二六回生の、無事に還暦を迎えたことを祝う学年同窓会を開催しました。

前回は平成二六年七月以来三年ぶりの開催となりましたが、西は兵庫県加西市、東は千葉県袖ヶ浦市など全国から八四名の同級生が集まり、ゲストとしてお迎えした卒業生のクラス担任である、岩田実先生(B組)、高柳淑子先生(F組)のお二方を囲んで、総勢八六名で大いに盛り上がりしました。

はじめに還暦の神事を恵那神社の梅村宮司さんにお願ひし執り行い、続いて全員で記念写真撮影、ゲストの祝辞と続き、前回幹事の三尾揚子さんの発声で乾杯。始めはクラスごとに着席したテーブルも宴の盛り上がりともクラスの境もなく入り乱れ、最後には全員で校歌を高らかに斉唱し、次回幹事に林茂



第32回生 五五歳 学年同窓会

吉村 あづさ (32回生)

平成二九年五月四日、第32回生(昭和五六年卒)の私達は還暦までもうひと踏ん張り」を合言葉に中津川に集まりました。

前回の五〇歳記念での一五〇名には及ばなかったものの、一二〇名を越える参加で、クラス幹事の恐るべきネットワークを駆使した個人情報により、全国から参加された面々に、あらためて中津高愛を感じたのでした。

前回は有ったはずの髪は無くなり、無かったはずの肉が有り、名札が無ければ会話がよそよそしいのはよくある事で、それでもあつという間に「あの頃」に戻り、笑顔がはち切れ、飲み食いも忘れて喋りまくった数時間。

お決まりのスライドショーと校歌斉唱、そして今でもロックな魂を持ち続けているバンドのミニステージでは、新たにボーカルが加わり、ダンサーも多数という盛り上がりとなりました。途中、お色直しのチョコレートフォンデュ入場は、寄付した本人



同窓会では、学年同窓会を応援しています。五五歳(六〇歳の学年同窓会、一回に限り上限四万円)の補助金を出します。条件は同窓会新聞に開催報告記事を寄稿していただきます。詳細は中津高校内事務局(0573-66-1361)にご連絡ください。

同窓会だより
お知らせ
同窓会では「学年同窓会」を応援しています。

発行 平成三〇年三月
岐阜県立中津高等学校同窓会
〒508-0001
中津川市中津川一〇八八の二